銀座山の会2019年度予算案

会計担当　桑原秀司

1. 期初残高
* 期初残高の内訳は一般会計130,402円、装備会計43,962円、安全対策基金500,000円、遭難対策基金1,000,000円、労山基金148,000円の計1,822,364円である。
1. 収入
2. 一般会計
* 会費：192,500円

山崎さんの退会意向と佐々木さんの入会を勘案し32名（19年3月分を含む）で織込み。

* 入会金：1,000円

佐々木さんの入会1名織込み。

* 受取利息：0円

僅かのため無視。

* その他収入：0円

織込む要素なし。

1. 装備会計：40,000円
* 一般会計からの繰入れ40,000円。
1. 安全対策基金：0円
* 今井家の寄付金を基に設定しているため、新規繰入れはなし。
1. 遭難対策基金：0円
* 新規繰入れはなし。
1. 労山基金：140,000円
* 山崎さん退会意向を勘案し、5,000円×28名で織込み。
1. 支出
2. 会場費：19,200円
* 800円×24回で織込み。
1. 連盟費：102,000円
* 都連盟費：2,400円×前年11月末会員数32名＋6,000円で確定している。
* 区連盟費：600円×前年11月末会員数32名で確定している。
1. 会報費：0円
* 休刊中のため織込まず。
1. ＨＰ費：6,480円
* ドメイン更新料は前払いのため、サイト利用料のみ計上。
1. 装備移送費：9,600円
* 300円×会員数32名で織込み

※織込み単価の根拠はないが、例年多くてもこのレベルである。

1. 訓練費：0円
* 予算請求がないので織込まず。
1. 交流費：0円
* 予算請求がないので織込まず。
1. 雑費：2,000円
* 振込手数料や送料、事務用品購入費等を織込む。
1. 装備会計繰入れ
* 1,250円×会員数32名で織込み。

※織込み単価の根拠はないが、これまでの実績から勘案し逆算して単価を設定した。

1. 遭対基金繰入：0円
* 2010年設定基準額が確保されているため繰入れず。
1. 予備費：144,622円
* 一般会計残高をゼロにする前提で逆算。

※臨時に発生する費用の大枠の意味合いであり、消化を前提とはしない。

※使途についてはその都度決議する必要がある。

1. 装備購入費：83,962円
* 前年度繰越43,962円＋今季繰入れ40,000円

※装備費用の大枠の意味合いであり、全額消化を前提とはしない。

※使途についての立案・意思決定機関を明確にする必要がある。

1. 安全対策基金払出：500,000円
* 積立額の全額を計上。

※安全対策費用の総額の意味合いであり、今期中の全額消化を前提とはしない。

※使途についての立案、意思決定機関を明確にする必要がある。

1. 労山基金精算：148,000円
* 前年度の預り金を精算するため、確定している。
1. 期末残高：1,140,000円
* 予算を全額消化した場合は、遭対基金と労山基金預り金が残高となるが、全額消化を前提とするものではないため、実際には一般会計・装備会計・安全対策基金の繰越が発生する。
1. まとめ
* 予算に関しては本来各機関から予算が要求された上でバランスをとるのが会計担当の職務であるが、現状の組織では立案を行う機関が消滅しており、誰も何も考えていない状況にある。
* これでは予算を策定することが不可能なため、今回会計担当者の交代に当り予算作成の方法をパターン化することとしたが、これは本来の姿ではない。適切な会運営体制の再構築が望まれる。
* 特に安全対策基金の消化については明確化する必要がある。誰も何も考えずに「塩漬け」にすることは今井敏樹さん及び今井家に対する冒涜に他ならないと考える。